東洋大學新聞
発行所
東洋大学新聞学会
東京都文京区白山5
電話(941)3211(代表)
振替口座　東京07741
一部20円　年500円

サークル誌・タイプ印刷
太洋社総合印刷(株)
文京区白山4-36-1
電話(九四〇)四五五九

新局面を迎える地区運動

入管体制粉砕闘争

入管闘争

防衛体制の決定的立ち遅れ

入管体制は、在日朝鮮人に対する自治的強圧制として存在している。日本国民は、今秋、入管法改悪を狙っている。この登録制のあらいなし、在日朝鮮人、中国人は、現在、国籍の剥奪、無条件の在留目的変更の権利の要求など、自分たちの抑圧体制を拡大すべく躍い抜いている。この在日朝鮮人、中国人の闘いに民衆の連帯は追いついていることが、今回、第二回目の公聞会に参加した、朝鮮総聯の代表の証言を聞くべく、この間、会場に結集された民衆の熱気の中に明らかにされた。

民衆の結集は、九月二日、ためらい、労働者、市民、学生、高校生、主婦、学者、文化人、自治会、青年団、婦人会、PTA、宗教者、医師、弁護士、教師

アラブ・永久革命としての雄叫び

―パレスチナ武装解放闘争―

中東戦争（六日戦争＝一九六七年）における「ラクラブ・パレスチナ人民の敗北は第二平和共存に屈服して存在するナセル・ボアルチスト体制・帝国主義・メンシェビキ・ブルダン体制の反動性を一掃するための闘争に出ずるに決定的に至れり。アラブ・パレスチナ民族解放闘争を新たなる高まりとの見方される。そして一九七〇年、九月十日、ヨルダンにおける政府軍とアラブ・ゲリラの軍事衝突は、パレスチナ解放人民戦線（PFLP）の圧倒的、敗勢が顕いに出ている。まさに革命の反革命の対峙の中で、相対地域に対する民族解放闘争の新しい段階に入ったのである。今、アラブ・ゲリラの闘いはウェストバンク・インドシナ革命の闘いとともに、真の革命の一環として、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ・ヨーロッパ・ロシアの革命の中で、相対地域に対する民族解放闘争を強いられて彼自身の態度が問われている。そして、まさに革命の反革命の対峙の中で、相対地域に対する民族解放闘争を強いられている。今、アラブ・ゲリラの闘いはウェストバンク・インドシナ革命の闘いとともに、真の革命の一環として、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ・ヨーロッパ・ロシアの革命

日本帝国主義の危機の性格

「賃労働と資本」その一国主義的綱領

本土プロレタリアートの解体と反帝国主義の形成について≪序記≫

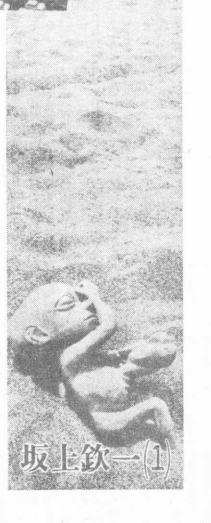
アジア革命の歴史的性格

本紙は、昨年（一九六九年）の一月から、「日本帝国主義の危機の性格」と題して、全十八回にわたって、「日本の学生運動の歴史的展開」を連載しました。そこでは、一九六〇年の六月十八日の国会突入闘争、そして、翌年の三月の三月闘争、そして、六月の安保闘争、そして、

文芸

実存主義の歴史的検証から
歴史と革命の現実に交渉を

革命の後退期に形成される急進性・絶望＝外界からの作用による歴史の転換力関係の逆転



坂上欽一(1)

一〇年代欧州社会主義を基礎とする出発点。革命の後退、敗北の中で発展された急進性と歴史の絶望と実存主義は今、相良敏男氏(ドイツ哲学専攻)の論稿にもうかがえる。相良氏は、革命を実践する労働者階級とインテリゲンチャ、学生、プロレタリアの標位と経験主義、急進主義の殻の中で、ナチュラル論理の解体を絶望することが、とれだけ本質に迫り得るのか、試論しよう。歴史の原動力にとって、労働者階級の役割とは何か。

実践としての哲学ノート

(一)

〈一〉そしてそれでもなを私が絶望しないならば、私を希望で充たすものは現在そのものの絶望的状態なのです。〉V

マルクスはさらにつづけて言う。〈現存するいっさいのものの容赦のない批判を〉と。

我々はすでに知っている。レーニンもトロツキーも同様であったことを、そして、とりわけトロツキーはあの一九二〇年代ならびに一九三〇年代のインターナショナルの生命であった。その歴史の深い挫折と敗北の体験が一時期の全体を覆った一九三〇年代において、それにかからねばならない。歴史の不可逆的な動態する新しい社会主義革命を新たな思想の次元へ、かつ、かつ高次の段階へ、革命の世界的同時性に対する新たな展望を、これらが絶対的な自信をもって、それにかかわら